

令和 8 年度切り花ぎく病害虫防除基準

※殺虫剤を散布する場合は、訪花昆虫に対する薬剤ごとの安全使用基準を徹底する。

発行：J A さ が え 西 村 山
さがえ西村山花き振興協会

[害虫防除]

作業	対象害虫								コ R I A ド C	薬 剤 名	使用方法				注 意 事 項		
	ネキリムシ類 (カブラヤガ)	アブラムシ類	アザミウマ類	ミカンキイロ アザミウマ	ハモグリバエ類	ハダニ類	ナミハダニ	オオタバコガ			コナジラミ類	倍率(薬量/水10ℓ)	散布量(10a)	使用時期		使用回数	
親株管理		○	○					○		1B	ジェイエース水溶剤	1,000倍(10g)	3.3㎡当たり1ℓ	発生初期	5回以内	マメハモグリバエにも登録がある。	
		○	○							1B	ジェイエース粒剤		6～9kg	発生初期	5回以内	株元散布。マメハモグリバエにも登録がある。	
定植時	○									1B	カルホス微粒剤F [®]		6kg	定植時	1回	作条処理土壌混和	
生		○	○							4A	モスピラン顆粒水溶剤 [®]	2,000倍(5g)	200～300ℓ	発生初期	5回以内		
								○		6	アフーム乳剤	1,000倍(10mℓ) 2,000倍(5mℓ)	200～300ℓ	発生初期	5回以内		
			○							4A	ダントツ水溶剤	2,000倍(5g)	200～300ℓ	発生初期	4回以内	散布。カメムシ類にも登録がある。 生育期株元灌注。ナモグリバエにも登録がある。 植溝土壌混和する。 植穴土壌混和する。 株元散布。	
		○	○		○				1ℓ/㎡ 3～6kg			定植時	1回				
					○				1g/株	生育初期							
			○						0.5～1g/株								
		○								4A	ベストガード水溶剤	1,000倍(10g)	200～300ℓ	発生初期	4回以内		
		○			○			○		13	コテツフロアブル [®]	2,000倍(5mℓ)	200～300ℓ	発生初期	2回以内	アワダチソウゲンバイ、ヨトウムシ類にも登録がある。	
				○	○					4A	アクタラ顆粒水溶剤	1,000倍(10g)	200～300ℓ	発生初期	6回以内	※ハモグリバエ類には2,000倍で散布する。	
			○	○						1A	オンコル粒剤5		6kg	生育期	3回以内	株元散布。※ミカンキイロアザミウマは9kg/10a	
		○								29	ウララ50DF	5,000倍(2g)	200～300ℓ	発生初期	6回以内		
	育		○	○							4A	アドマイヤーフロアブル [®]	2,000倍(5mℓ)	100～200ℓ	発生初期	5回以内	施設栽培で登録があるが、露地栽培では登録がないので注意する。
			○								4A	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍(5g)	200～300ℓ	発生初期	5回以内	カメムシ類にも登録がある。 灌注。
						○				1L/㎡ 1,000倍(10mℓ)							
			○	○		○					21A,39	ハチハチ乳剤 [®]	1,000倍(10mℓ)	200～300ℓ	発生初期	4回以内	白さび病にも登録がある。
	期		○	○							1B	ジェイエース粒剤		9kg、1～2g/株	発生初期	5回以内	株元散布。マメハモグリバエにも登録がある。
				○			○		○		30	グレーシア乳剤	2,000倍(5mℓ)	200～300ℓ	発生初期	2回以内	ハスモンヨトウにも登録がある。
							○				20B	カネマイトフロアブル	1,500倍(6.6mℓ)	200～300ℓ	—	1回	[ハダニ類]
							○				25A	スターマイトフロアブル	2,000倍(5mℓ)	200～300ℓ	発生初期	1回	1. 発生初期に防除を徹底する。
							○				6	コロマイト水和剤	2,000倍(5g)	200～300ℓ	発生初期	2回以内	2. 乾燥が続く時期は特に発生しやすいため、
				○			○				6	アグリメック [®]	500倍(20mℓ)	200～300ℓ	発生初期	5回以内	注意する。
								○			20D	マイトコーネフロアブル	1,000倍(10mℓ)	200～300ℓ	開花前まで	1回	3. 同一薬剤の連用はさける。
								○			1B	ガードホープ液剤 [®]	3,000倍(3.3mℓ)	2ℓ/㎡	生育期	2回以内	土壌灌注。ネグサレセンチュウ、ハガレセンチュウに登録がある。
				○		○			○		5	スピノエース顆粒水和剤	5,000倍(2g)	200～300ℓ	発生初期	2回以内	
									○		28	フェニックス顆粒水和剤	2,000倍(5g)	200～300ℓ	発生初期	4回以内	
								○		UN	プレオフロアブル	1,000倍(10mℓ)	200～300ℓ	発生初期	4回以内	ハスモンヨトウにも登録がある。	
			○					○		28	ヨーバルフロアブル	2,500倍(4mℓ)	100～300ℓ	発生初期	3回以内		
							○		30	プロフレアSC	2,000倍(5mℓ)	100～300ℓ	発生初期	3回以内			

[病害防除]

作業	対象病害							R A C コード	薬 剤 名	使用方法				注 意 事 項	
	白さび病	黒斑病	褐斑病	立枯病	うどんこ病	灰色かび病	白絹病			斑点病	倍率(薬量/水10ℓ)	散布量(10a)	使用時期		使用回数
定植前				○			○		8F	バスアミド微粒剤 [®]		20～30kg	は種又は 植付前	1回	土壌混和。3年連続して伏せ込む場合は必ず土壌消毒を行う。
親株管理	○					○			M3	ジマンダイセン水和剤	600倍(16.6 g)	0.3ℓ／㎡	—	8回以内	炭疽病、べと病にも登録がある。
	○								M2	コロナフロアブル	800倍(12.5ml)	0.3ℓ／㎡	—	—	
					○				39	ピリカット乳剤	1,000倍(10ml) 2,000倍(5 ml)	0.2～0.3ℓ／㎡ 0.2～0.3ℓ／㎡	発病初期 発病初期	6回以内 6回以内	アブラムシ類にも登録がある。
さし芽時	○								7	バシタック水和剤75	1,000倍(10 g)	200～300ℓ	発病初期	5回以内	
生育期	○	○	○		○			○	M5	ダコニール1000	1,000倍(10ml)	200～300ℓ	発病前～ 発病初期	6回以内	密植多肥栽培をさける。
			○						1	トップジンM水和剤	2,000倍(5 g)	200～300ℓ	—	5回以内	菌核病1,500倍
	○								11	アミスター20フロアブル	2,000倍(5 ml)	200～300ℓ	発病初期	5回以内	6月上、中旬、梅雨期間中に防除を徹底する。
	○				○	○			7	アフエットフロアブル	2,000倍(5 ml)	200～300ℓ	発病初期	3回以内	
	○								3	ラリー乳剤	3,000倍(3.3ml)	200～300ℓ	発病初期	5回以内	EBI剤は耐性菌出現防止のため、総使用回数は2回以内とする。
	○				○					アンビルフロアブル	1,000倍(10ml)	200～300ℓ	発病初期	7回以内	
									31	スターナ水和剤	1,000倍(10 g)	200～300ℓ	—	5回以内	斑点細菌病に登録がある。発病初期防除を徹底する。

作 業	対象病害	対 策
親 株 管 理	き く え そ 病	1.発病株は抜き取り、適切に処分する。 2.発病株からさし穂を取らない。 3.アザミウマ類の発生初期から防除を徹底する。 4.発病株に触れた手で健全株に触れない。
生 育 期	き く え そ 病 (トマト黄化えそウイルス)	1.アザミウマ類の発生初期から防除を徹底する。 2.被害株は早期に抜き取る。 3.発病株に触れた手で健全株に触れない。
採 花 後	ウ イ ル ス ウ イ ロ イ ド	アブラムシ類、ハダニ類、アザミウマ類等の防除を徹底する。 わい化したもの(疑わしいもの)は抜き取り、親株には使用しない。

除草剤使用基準

	薬 剤 名	RAC	10 a 当り薬量／散布量	使 用 時 期	使 用 方 法	使用回数	適 用 雑 草		特 性
							一年生雑草	一年生イネ科雑草	
処土理 剤壌	トレファノサイド乳剤	3	200 ～ 300mℓ／ 100 ℓ	定植後	畦間土壌散布	1 回	○		露地栽培のみ使用できる。 ツククサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科雑草には効果がない。
	アグロマックス水和剤	3	200 ～ 400g／ 100 ℓ	定植後(雑草発生前)	全面土壌散布	1 回	○		・キク科、カヤツリグサ科には効果が劣る。
	ゴーゴーサン乳剤	3	200 ～ 400mℓ／ 70 ～ 150 ℓ	定植前(雑草発生前)	全面土壌散布	1 回	○		・キク科雑草とツククサには効果が劣る。
処茎理	ナブ乳剤	1	150 ～ 200mℓ／ 100 ～ 150 ℓ	雑草生育期 (イネ科雑草3～5葉期)	雑草茎葉散布 又は全面散布	3回以内		○	・イネ科作物には薬害があるので注意する。 ・遅効性で枯死するまでに7～10日必要。 ・広葉雑草及びスズメノカタビラやカヤツリグサに効果がない。
剤薬	バスタ液剤	10	300 ～ 500mℓ／ 100 ～ 150 ℓ	雑草生育期(草丈20cm以下)	雑草茎葉散布	3回以内	○		畦間処理。作物に飛散しないように注意する。

◆系統別適用農薬一覧表 ★系統の異なる農薬を輪用で使用する。

殺 虫 ・ 殺 ダ ニ 剤	分 類	IRAC	殺 虫 剤	殺 ダ ニ 剤
	カーバメート系	1A	◎オンコル	
	有 機 リ ン 系	1B	ジェイエース・カルホス・ガードホープ	
	ネオニコチノイド系	4A	アドマイヤー・◎アクタラ・ダントツ ◎ベストガード・モスピラン・スタークル	
	ス ピ ノ シ ン 系	5	スピノエース	
	マクロライド系	6	アフーム・アグリメック	コロマイト・アグリメック
	ピ ロ ー ル 系	13	◎コテツ	
	ア セ キ ノ シ ル	20B		カネマイト
	ケトニトリル誘導体	25A		スターマイト
	ジ ア ミ ド 系	28	フェニックス・ヨーバル	
	メタジアミド系	30	グレーシア・プロフレア	
	フ ロ ニ カ ミ ド	29	ウララ	
	U	N	プレオ	
		UN		

注意 ◎印はミカンキイロアザミウマに効果のある農薬です。

殺 菌 剤	分 類	FRAC	予 防 効 果 の み	予 防 ・ 治 療 効 果
	M B C	1		トップジン M
	D M I	3		ラリー・アンビル
	S D H I	7	バシタック・アフエット	
	Q O I	11		アミスター
	硫 黄	M2	コロナ	
	ジチオカーバメート	M3	ジマンダイセン	
	クロロニトリル	M5	ダコニール	

■合成ピレスロイド剤は蚕、魚類に対する毒性が強いので、桑園、養魚池、河川の近くでは使用しない。モスピラン顆粒水溶剤[®]、アクタラ顆粒水溶剤、アドマイヤーフロアブル[®]、コテツフロアブル[®]、アフーム乳剤、スピノエース顆粒水和剤は、蚕に対する毒性が特に強いので桑園の近くでは使用しない。